

令和4年度 地域活性化活動助成事業活動概要 「とのみん通り」活性化事業

防府市立富海小中学校

1 はじめに

本校は、小学部6学級63名、中学部5学級36名の小規模校である。平成28年から小規模特認校の指定を受け、現在12名の児童生徒が市内の他校区から通学している。小規模特認校指定の経緯には、富海地区の児童生徒数の減少により、学校の統廃合を危惧する地元の要請もあったと聞く。小中一貫教育については、小中学校の校舎が隣接するという強みを生かし、平成22年度から研究が始まり、平成30年度には併設型小中一貫教育校として新たな学校のスタートを切った。その際、旧小学校校舎に中学校の普通教室や職員室を移動させ、施設一体型の校舎としたのである。

地域の課題は、学校の課題と同じく、人口の減少と高齢化である。そのような地域の活性化は、学校の元気と密接につながっている。今回、地域と学校をつなぐシンボルになっている「とのみん通り」を活性化する事業も2年目となっている。そこで、今年は、「藍染め」を継続してとのみん通りをリニューアルするとともに、「とのみん通りの活性化」だけではなく、今年一年かけて取組んだ「地域の活性化」に向けた児童・生徒の活動を報告したいと思う。

2 本年度の取組

本年度の地域活性化の取り組みは、大きく分けて3つある。1つ目は、昨年度から続けている「藍染体験の持続可能化」の取り組みである。2つ目は、本校の独自教科である「グローバル・コミュニケーション科(GC科)」による、地域活性化の取り組みである。そして、3つ目が中学部の生徒会執行部を中心とした地域貢献活動「TVG(富海・ボランティア・グループ)」による活動である。

(1) 持続可能な「藍染め体験」の完成

「富海の藍と愛」というキャッチフレーズがあるように、富海地域にとって、藍染めは地域活性化のために欠かせないものである。数年前までは、地域おこし協力隊の方が藍染め体験を児童生徒のためにしていただいていたが、現在は地域おこし協力隊員の任期も切れ、それも望めない状況である。そこで、学校のカリキュラムの中に「藍染め体験」を組み込み、人的環境が変わっても、子どもたちが藍染めに親しめることができる様に体制づくりを昨年度からおこなっている。

昨年度からスタートした藍の栽培であるが、今年は、校内で収穫した「藍の種」を播いて、「苗づくり」からスタートした。これを行うことで、「純富海小中産」の藍で藍染め体験を行うことが可能となった。写真は、中学部1年生が技術の時間で栽培・観察を行っている様子である。

昨年度に残った課題は、「藍の葉をちぎるのに時間がかかりすぎる」「生葉染めは絹しか染色できない」であった。藍の葉ちぎりは、小学部の児童に協力をお願いし、葉をちぎってもらった。また、綿布に着色できるようにするためには、一週間ほど藍建てをすれば、藍の成分が綿布に定着できると地元の方から知恵をいただいたので、生徒が交代で一週間藍建てを行った。その結果、単価の高い絹布ではなく、安く手に入れることができる「綿布」に藍染めを行うことができた。



余談ではあるが、藍の葉ちぎりをお願いした小学部では、地域探検で藍染作家さんを訪ねたり、教職員も生葉染めを楽しんだりした。その流れで、「藍染学習の小中一貫カリキュラムがあればもっと良いのでは」との話題となり、夏季職員研修でそのことについて話し合いをもつこととなった。まだ、一貫カリキュラムは完成してはいないが、新たな一歩を踏み出している。



(2) 「グローバル・コミュニケーション科（GC科）」による活性化

本校は、小規模特認校である。選んでもらえる学校として、特色ある教育活動を行うことが必要である。その中核に据えているのが、「英語教育」とそれに連動した、本校独自のカリキュラムである「グローバル・コミュニケーション科（GC科）」の授業である。GC科では、単に英語のスキルの向上を目指すのではなく、グローバルな視点を持ち、富海から世界に羽ばたく人づくりを目指している。私たちが育てたいのは、「世界で戦う」人材ではなく、地球社会に「貢献する」人である。そこで大切なのは、①英語を使用するだけでなく、母語でもしっかりと自分の考えをもち発信しようとする意欲（「アイデンティティーの確立」）をもつこと、②他者に共感しながら外国語でも円満にコミュニケーションがとれる資質（ことばを通しての他者との関係構築）を磨くこと、そして、③自分とは異なる文化や考えをもつ他者を理解しようとする態度（異質性への寛容さ）をもつ児童生徒であり、そのための9年間のカリキュラムが設定してある。

今年度の中学部の前期GCは、「富海を活性化するためにはどうすればよいか」を縦割り班で構想を練り活動した。その中の数例を紹介する。

① 「富海観光地図」と「富海観光パンフレット」の作成

富海を中心は、「駅」である。駅を基点として、富海海水浴場や多くの史跡・景勝地、飲食店がひろがっている。この班は、駅に降りる観光客をターゲットに「飲食店」「特産品」「景勝地」を実際に取材し、観光地図を作成した。

右が、発表会の様子である。作成した大きな観光地図は、J Rの許可をもらい、駅の待合室に掲示している。また、取材して集めた、様々な情報をA3両面に印刷した「観光パンフレット」も、駅に置かせていただいている。このパンフレットには、生徒のおすすめ情報や店の営業時間などが詳細に書いてあり、追加においてもすぐなくなる状態である。



② 富海駅の掃除と駅改善案の提案

別の班では、富海の玄関口である「富海駅をもっときれいに保とう」というテーマ掲げ、実際に自分たちが清掃活動を行って、そのきれいさを持続させるにはどうすればよいのかを考えた。写真はその時の様子である。「掃除道具が常設してあればよい」「自動水栓だと、掃除用の水を出すことが難しい」などのやってみてわかることを結論として引き出した。



現在、富海駅はJ Rの方針により、改修工事が計画されている。計画では小さく、味気ない駅舎となる計画であるが、地元の「地域活性化協議会」等の要望で、地域の憩いの場のスペースも兼ねた施設となることが市から提案された。駅舎改築の地元の意見をまとめるために、夏には「富海駅舎新設にあたり明るく、利用者が増え、使いやすいものにするにはどうすればよいか」を地元の方々を交えて熟議した。写真は、感染対策のために、ズームで意見交換をしている様子である。その際に、この班の生徒からは、実効性が高くより現実的な話が出てきたことは言うまでもない。



③ 小学部の「顔出しパネル」作成

小学部は、前期のG Cを「ふるさと富海での感動体験を伝えよう」と題して、3班に分かれて活動した。その中の一班は、「富海に来た人に楽しんでもらおう」という趣旨で、本校のマスコットの「とのみん」と防府市の「ぶ



っちー」を描いた「顔出しパネル」を作成した。その途中で、地元の工務店さんに木の切り出しをお願いして、地元とのつながりも楽しんだのである。現在、富海駅は改修工事中のため、本校玄関前に設置し、来校した人を楽しませている。

(3) 「TVG（富海・ボランティア・グループ）」による活動

生徒たちは、地域のボランティア団体「琴音の風」のみなさんに、小学時代から農業体験だけでなく、卒業記念植樹などでも大変お世話になっている。そこで、昨年度の生徒総会では、お世話になっている地域とのつながりを強め、何らかの恩返しをしたいと考え、「TVG (Tonomi Volunteer Group)」を発足したのである。今年の生徒総会では、「具体的にどのような活動ができるか」を考え、具体的な活動を展開し始めている。その一部を紹介する。

右の写真は、6月に行われた「菖蒲まつり」でのボランティアの様子である。この祭りは、学校近くの菖蒲畑で行われる地域活動団体主催の行事である。コロナ禍のためここ数年開催していなかったが、今年は、飲食を伴わない形で久しぶりに開催された。生徒たちは、菖蒲の花を刈り取って販売したり、地元の特産品を販売したりする運営スタッフとして活動した。



右の写真は、富海の名勝「琴音の滝」に続く山道を地域のボランティアグループの方と整備している姿である。この活動は、TVGの立ち上げ以前から続いているものではあるが、スタッフベストを作ってから初めての活動である。山道の石をセメントで固定する作業をしたが、初めてセメントに触る生徒もおり、生徒たちにとっても良い経験となっていると感じている。



3 これからの展望

まずは、本助成により、ボランティア・藍建てのための様々な用品を購入することができ、持続可能な取組みの準備が整ったことに、感謝申し上げたい。

今年度は、このほかにも「見守り隊さん感謝の会」を新設して、給食の試食もしてもらった。将来的には、これを「地域の給食試食会」へと発展させ、一人暮らしの方が昼食をとり、昼休みには昔の遊びを子どもたちとできるとすてきななあと思っている。また、年末には、地区民生児童委員長からの依頼を受けて、小学部の児童が戸別訪問時に手渡す手紙を書かせていただいた。このように、ほんの小さなことではあるが、本校でできることを探りながら、「地域の活性化」にこれからも寄与していきたい。